

高専制度創設60周年記念事業

第1回高専防災減災コンテスト募集要項

【主催】

独立行政法人国立高等専門学校機構、国立研究開発法人防災科学技術研究所、公益財団法人国際科学振興財団

【後援】

文部科学省（予定）、一般社団法人全国高等専門学校連合会、日本放送協会（NHK）（予定）、読売新聞社・防災ニッポン

【目的】

本コンテストは、高等専門学校に在籍する学生を対象として、防災減災に関わる社会課題を解決する技術のアイデアとその検証過程を競う機会を提供し、活動を通じた高専生の成長の促進と若い力による社会の災害レジリエンス向上に寄与することを目的とします。独立行政法人国立高等専門学校機構（以下、「高専機構」という。）、国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、「防災科研」という。）、公益財団法人国際科学振興財団（以下「財団」という。）が連携し、高等専門学校が60周年を迎える2022年度に第1回を実施するものです。

【募集概要】

第1回高専防災減災コンテストは、みなさんがこれまで培ってきた技術や知見を地域の防災力・減災力向上に役立てる可能性にチャレンジしていただく取り組みです。

最初にアイデアを応募いただき書類審査を行います。応募の中から書類審査で選ばれた個人またはチームには、アイデア検証を行っていただきます。防災科研の研究者等によるメンターサポートや検証活動経費のサポートを受けることができます。また、アイデア検証の最終審査は、プレゼンテーション動画及びアイデア検証報告資料で行います。

高専防災減災コンテストの特徴のひとつは、アイデア検証時にステークホルダーへのヒアリングのプロセスを取り入れていることです。異なる視点から見た課題が明確になるなど、取り組みの中で高専生が気づきを得られるようになっていきます。ぜひみなさんのアイデアを社会に実装するプロセスをリアルに体感してください。

【募集テーマ】

- お住まいの地域や訪問したことのある地域など、地方自治体をはじめとする地域の防災力・減災力を向上させるためのアイデアを広く募集します。
- 「地域の防災力・減災力」は広い視点で捉えていただいて結構です。多様なアイデアが集まることを期待します。
- コンテスト終了後に、社会実装につながるさらなる取り組みや高専と防災科研との共同研究に発展することを強く期待します。

【応募資格】

コンテストへの応募者は次にあてはまるものとします。

- 本科・専攻科を問わず国・公・私立高専57校に在籍する学生（個人でも、チームでも可）。
 ※教職員がチームのメンバーに入ることも可能です。教職員がチームのメンバーに入らない場合には教職員が顧問として入ることとします。
 ※複数校がチームを組んで提案することも可能です。チームの代表校を決めていただき、連携校の参加者の情報など提案書に必要事項を記載ください（8月30日追記）。
 ※ヒアリングを行うステークホルダーの位置付けで、企業や自治体等の方が参画することは可能ですので、提案書にその事を記載ください（8月30日追記）。

【応募方法】

- 応募書類様式を第1回高専防災減災コンテストのWebサイト（https://www.bosai.go.jp/lab/ExtremeWeather/contest/contest_2022.html）からダウンロードし、必要事項を記入してPDFファイルに変換後、メールに添付してお送りください。

送付先：nied-kosencon(at)bosai.go.jp ※(at)は@に変更してください。

<応募時送付書類>

- 企画提案書(PDF)
 - Webサイトなどへの個人情報掲載及び肖像権の使用承諾書(PDF)
- 応募に際しては、他者の知的財産権の侵害や、共同研究者との機密保持契約違反などが無いように十分注意し、自身の知的財産権の保護にも必要な配慮をしてください。なお、応募内容に対する著作権は応募者が有しますが、以下の提出資料等については、コンテスト Webサイト、パンフレット、記録動画等に掲載することがあります。
 - (1) 企画提案書および最終審査のプレゼンテーション動画、アイデア検証報告資料のファイル
 - (2) アイデア検証活動時に撮影した写真・動画など
 - (3) 最終審査会時に撮影する写真・動画など

● 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただきました個人情報は高専防災減災コンテストの広報活動、受付、運営業務に限り使用いたします。なお、ご本人様の同意がある場合または法令に基づく開示請求があった場合や、不正アクセス、脅迫等の違法行為があった場合その他特別の理由のある場合を除き、上記目的以外での利用及び第三者への開示・提示はいたしません。

【サポートの内容】

1. 書類審査に対して

- 審査員のコメントをフィードバックします。

2. アイデア検証に対して

- 書類審査で採択されたアイデア（最大10件程度）の検証活動経費のサポートを行います（10万円程度を予定）。
- 防災科研の研究者等がメンターとして加わり、活動のサポートを行います。
- 最終審査会が対面で開催される場合、参加するチームの教員・学生の旅費支援を予定しています。

【審査】

- 高専機構、防災科研を含む大学等、研究機関、産業界の審査員の選考により決定します。

【書類審査の観点】

- ① 地域実装への期待
- ② 地域の課題や特性をよく捉えているか
- ③ 着眼や発想のユニークさ

※ ①、②について；テーマ選択の根拠となる地域メディア等の報道や関係者へのヒアリング結果などが示されているか

【アイデア検証最終審査の観点】

- ① 地域への実装や他地域への展開の可能性
- ② 課題検証のプロセスが明確
- ③ ステークホルダーヒアリングの分析
- ④ プレゼンテーション動画の工夫

【表彰】

- ・ 文部科学大臣賞（予定）：審査員得点最上位の最優秀賞に相当
- ・ 高専機構賞：審査員の合議で決定
- ・ 防災科研賞：審査員の合議で決定
- ・ 国際科学振興財団賞：審査員の合議で決定
- ・ NHK会長賞（予定）：審査員の合議で決定

【コンテストの流れ】

2022年8月22日(月)…募集開始

2022年8月24日(水)…オンラインによるアイデア募集説明会

- ・ 説明会終了後、メールによる質問を応募書類送付先アドレスにて受け付けます。
- ・ 応募締切日まで、コンテストのホームページで説明会動画の視聴が可能です。

2022年10月4日(火) 17時必着…応募締切

2022年10月上旬…書類審査結果発表

- ・ 最大10件採択。
- ・ 書類審査を通過したチームを対象としたアイデア検証の実施方法の説明会をオンラインで行います。

2022年10月中旬…アイデア検証開始

- ・ 期間：2022年10月中旬～2023年2月中旬
- ・ 防災科研の研究者等がメンターとして活動をサポート。
- ・ アイデアの検証活動経費をサポート（10万円程度を予定）。

<アイデア検証では下記課題を実行してください>

- ・ 想定されるステークホルダーに検証中のアイデアについてヒアリングを行ってくだ

さい（オンラインでも構いません）

- ・ ヒアリング結果の分析を行い、ステークホルダーから見た自分たちのアイデアの「強み」と「課題」について、プレゼンテーションの中で触れてください。

2023 年 2 月中旬…最終審査資料提出締切

下記 2 種類のプレゼンテーション資料をご提出ください。

- ① プレゼンテーション動画（10 分以内、MP4 ファイル）
- ② アイデア検証報告資料（様式指定（パワーポイント）15 枚以内、PDF ファイルに変換してください）

※データなど、補助資料の追加提出は受け付けません。

2023 年 3 月上旬…最終審査会

- ・ 最終審査会は、東京都内の会場での開催、あるいはオンラインでの開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮して詳細を検討し、後日別途お知らせします。

【FAQ（よくあるお問い合わせ）】

◆どのような切り口で提案したらよいですか？

『皆さんが日頃感じているような、皆さんの目線での防災、減災の観点を入れてもらうことです。自分達なりのチャレンジの内容があれば、更に良いと考えています。』

◆他のコンテストで発表したアイデアでもかまいませんか？

『かまいません。ただし以前行った発表そのままのアイデアではなく、新たなアイデアを付加させたものや、バージョンアップしたものが対象となります。』

◆2023年3月までに何を達成することを目指せばよいでしょうか？

『2023年3月までにアイデアの最終完成形を目指すことは難しいケースが多いと思われるので、「大きな構想の中のこの部分を今回やってみる」というアプローチで良いと考えています。』

『必ずしもアイデアが有望なものであったという結論が最重要とは考えておらず、検証の結果、このアイデアのままでうまくいかないことが判明した、ということもまた成果のひとつだと考えています。』

◆複数の提案に同じ提案者の名前が入っていてもよいのでしょうか？

『複数の企画提案は大歓迎です。ただし1つの提案ごとに1通ずつご応募ください。』

◆書類審査通過後のアイデア検証活動において、防災科研が持っている独自のデータを提供してもらうことは可能ですか？

『はい、内容を伺い可能な限りお応えします。』

◆今回のコンテストでの提案内容に関して、同様の提案を他にすることは可能ですか？またその際に守秘義務などがありますか？

『今回のコンテストでは、まずは気軽にご提案いただきたいと考えておりますので、ご懸念のような制約は設けない方針です。』

◆アイデア検証への協力を自治体等に依頼する際、例えば高専機構、防災科研、財団主催のコンテストの活動であることを話すと受け入れられやすくなるかと考えていますが、そういった言い方をしてもよいでしょうか？

『お互いデメリットにならないようにご活用いただければと考えます。』

【問い合わせ先】

国立研究開発法人防災科学技術研究所内

第1回高専防災減災コンテスト事務局

Webサイト https://www.bosai.go.jp/labo/ExtremeWeather/contest/contest_2022.html

メール [nied-kosencon\(at\)bosai.go.jp](mailto:nied-kosencon(at)bosai.go.jp) ※(at)は@に変更してください。

以上